

地域防災力としての消防団の在り方と町の責務

団員の負担軽減を図りながら団員確保に努める

- 全国的に消防団員不足が深刻になっているが、阿久比町も例外ではなく、令和5年4月1日には第4分団の団員が0人となり、分団としての活動ができなくなった。**
- 消防団の分団再編も含め検討されているようですが、地域防災力としての消防団の在り方と町の責務について考え、災害時、消防団が有効に活動できる阿久比町の減災に貢献できる体制作りをすることが重要である。**
- 問** 消防団は地域防災力の中核とされている。本町の考える地域防災力の中核とはどういうことか。
- 答** 地域の実情を熟知し、専門的な知識・技能を有する消防団は、地域のつなぎ役としても重要な役割を担っており、地域防災力の中核であると考えている。
- 問** 団員確保に向けた阿久比町が行ってきた取り組み内容と評価。
- 答** 広報あぐい、ホームページ、各種イベント等で団員募集の広報活動を実施しているが、団員数は年々減少している。
- 問** 消防団の条例定数の考え方。
- 答** 火災鎮圧・予防などの業務の遂行に必要な団員数で、現状の団員数の状況を踏まえ、一定の増員ができる定員としている。
- 問** 現役消防団員の消防団離れを防ぐため、行事等どんな見直しを考え、いつ頃結論を出すのか。
- 答** 式典等の統合、簡素化など消防団と協議しながら見直していく。令和6年2月に、来年度に実施する行事を決定する。
- 問** 機能別消防団員・分団とはどんな制度で、本町には何人の団員がいるのか。



たけうち たくみ 議員
竹内 卓美 (新進会)

- 答** 特定の活動、役割のみに参加する消防団員のこと、本町には11人中、隣接市町・参集時間等を考慮して、例外規定を設け団員活動を継続してもらうことはどう考えるか。
- 問** 現役消防団員の退団理由に、就職、結婚等で阿久比町を離れ、団員資格を失う場合もある。新入団員確保が難しい
- 答** 団員資格は条例で定めている。国の考え方や近接の範囲の線引きの難しさから、例外規定を

- 設けることは難しい。国の動向や方針を注視しながら検討していく。
- 問** 消防団員の休団制度活用が通知されている。多様な団員を確保する意味でも休団制度は必要と考えるが見解は。

- 答** 家庭の都合等による退団や再入団は認められている。休団制度の導入は団員の意見を聞きながら検討していく。

- 問** 外国籍の方の消防団入団は課題も多い。最大の課題は、公権力の行使。消防団員の行使する公権力を説明し、外国の方の入団についての見解は。

- 答** 消防団員が公権力を行使する活動は、
・ 消火活動
・ 延焼防止のための家屋の破壊
・ 消防車両の運転など
公権力を行使しない活動を前提に、他の入団条件と合わせて検討する。